

令和4年度第2回さいたま市社会教育委員会議 次第  
(第11期第5回会議)

日時：令和4年11月24日（木）  
10時00分から  
会場：ときわ会館3階 第2会議室

1 開 会

2 委嘱状交付

3 挨拶

4 議 事

(1) 報告事項

- ・前回会議について

(2) 協議事項

- ・第11期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

5 連絡事項

6 閉 会

令和4年度第2回(第11期第5回)さいたま市社会教育委員会議 出席者名簿

No.	氏名	選出母体等	備考
1	石田 玲子	さいたま市公民館運営審議会委員	
2	井上 久雄	青少年育成さいたま市民会議副会長	
3	加藤 美幸	十文字学園女子大学特別招聘講師	副議長
4	桑原 静	特定非営利活動法人さいたまNPOセンター専任委員	
5	小森谷 由紀江	埼玉県児童福祉審議会委員	
6	佐藤 理恵	公募委員	欠席
7	関根 公一	公募委員	
8	高山 俊介	さいたま市中学校長会	欠席
9	千明 勉	さいたま市立小学校校長会	欠席
10	塚元 夢野	公募委員	
11	林 弘樹	映画監督	
12	溝口 景子	さいたま市PTA協議会会長	
13	吉川 洋一	(公財)さいたま市スポーツ協会副会長	新任
14	若原 幸範	聖学院大学准教授	議長
15	亘理 史子	浦和大学非常勤講師	欠席

(50音順)

(さいたま市シニアユニバーシティ校友会)

1	大田 章	さいたま市シニアユニバーシティ校友会連合会会長
---	------	-------------------------

(事務局)

1	山浦 麻紀	教育委員会事務局生涯学習部長
2	辰市 健太郎	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課長
3	馬場 智哉	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課副参事
4	竹居 秀子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課参与
5	石田 悦子	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係長
6	伊藤 智美	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主任
7	清宫 雅貴	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課企画振興係主任
8	水澤 祐子	教育委員会中央図書館参事兼資料サービス課長
9	渡邊 将太	保健福祉局長寿応援部高齢福祉課生きがい事業係主任
10	来栖 奈菜	保健福祉局長寿応援部高齢福祉課生きがい事業係主事

## 令和4年度第1回（第11期第4回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

○開催日時：令和4年7月19日（火）10時00分～11時30分

○開催場所：別館2階 第5委員会室

○出席者名：【委員】若原 幸範議長、加藤 美幸副議長、石田 玲子委員、  
井上 久雄委員、桑原 静委員、小森谷 由紀江委員、  
佐藤 理恵委員、関根 公一委員、高山 俊介委員、  
千明 勉委員、林 弘樹委員、溝口 景子委員、  
村山 和弘委員、亘理 史子委員

【事務局】（生涯学習部）山浦 麻紀  
（生涯学習振興課）辰市 健太郎、馬場 智哉、竹居 秀子、  
田方 靖高、石田 悦子、清宮 英恵、  
伊藤 智美、清宮 雅貴、小暮 長樹  
（生涯学習総合センター）中村 和哉  
（資料サービス課）水澤 祐子  
（スポーツ振興課）細渕 裕幸

○欠席者名：塚元 夢野委員

○公開・非公開の別：公開

○傍聴人の数：なし

### 1 開 会

### 2 挨拶

### 3 議 事

#### (1) 報告事項 前回会議について

令和3年度第4回会議の概要について会議録に基づき説明した。

#### (2) 協議事項

##### ア 令和4年度 社会教育関係団体補助金について

令和4年度の社会教育関係団体補助金について、資料1に基づき説明し、意見を聴取した。委員の意見等は特になし。

##### イ 第11期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

###### (ア) 事業説明・事前質問への回答

資料2別紙を基にヒアリング対象事業の「スポーツ推進委員支援等事業」について、所管のスポーツ振興課より概要の説明と、社会教育委員から事前に募った質問事項への回答を行った。

###### 【事前質問回答】

①市民と行政の連絡調整役として、具体的にはどのような役割を担っているか。

②行政及び地域と連携しながら活動するという点で、地域からの声・要望はどのような形で集めているのか。

<スポーツ振興課>

地域でのスポーツ教室等企画運営やスポーツの実技指導などの機会を通して、地域の住民の方々とのコミュニケーションを図っている。

③市内拠点数やスポーツ推進委員の具体的数値について明示されているが、他自治体との比較でどのようなレベルにあるのか。また地域独自性と絡め活動例があれば、ご提供いただきたい。

<スポーツ振興課>

人口比など条件が異なるため一概に比較はできないが、埼玉県内においては川口市に次いで多くの推進委員を委嘱している。

地域の独自性としては、市主催のランニングイベント等で運営役員として活動していただいている。また各支部においては、チャレンジスクールや区民まつりへの協力など、各支部の実情に合わせて独自のイベント等で活動いただいている。

④スポーツ推進委員の認知度向上について、市としてどのような貢献をしているのか。

<スポーツ振興課>

スポーツ推進委員の職務や活動内容、連絡協議会が実施する事業内容について、市報や市ホームページに掲載して周知を行っている。

⑤募集等の周知活動に係る基本方針及び具体例をご案内いただきたい。

<スポーツ振興課>

2年に1度の委嘱・改選時期には、地域で社会的な信望があり、スポーツに関する深い関心と理解を持ち、また職務を行うのに必要な熱意と能力を有する方を広く募集するため、市報や市ホームページで募集の周知を行っている。

また、市内の各スポーツ団体等にも通知して周知しており、地域のスポーツ団体から選出いただき、各区の連絡協議会の支部長から推薦する形で推進委員の委嘱を行っている

⑥他団体とのつながりやネットワークを生かした活動の具体例を伺いたい。

<スポーツ振興課>

各校で実施しているチャレンジスクールでのスポーツ体験教室、PTA等からの依頼によるスポーツ審判員の派遣、地区体育振興会や区のスポーツ振興会など地域住民のスポーツレクリエーション活動の普及発展に寄与する団体への共催協力などを行っている。

⑦市民のスポーツへの関心を高め、市民が自主的にサークルなどを立ち上げ、地域で活動の場を広げることも重要と思われるが、市民の自主的活動への協力、支援

についても委員が継続的に関わっているのか。

<スポーツ振興課>

ニュースポーツについて、連絡協議会での普及活動をきっかけとしてスポーツ推進委員の方が中心となって協会を立ち上げ、現在も役員を担っている例がある。

⑧スポーツ推進委員のまちづくりへの貢献としては、どのようなことがあるか。

<スポーツ振興課>

各種スポーツ教室や大会等を地域で開催して市民の皆様がスポーツを楽しめる場を提供していること、地域の行事でスポーツの指導や協力を行っていること、市の主催するスポーツイベント等で大会運営等の役割を担うことで、市のスポーツ振興に貢献し、ひいては地域や市全体のまちづくりに貢献するものと考えている。

⑨スポーツの果たす役割の重要性について伺いたい。

<スポーツ振興課>

近年のコロナ禍における外出自粛等による運動不足やストレスにより心身に悪影響をきたす健康二次被害が問題視されている中、感染予防しながらも意識的に運動やスポーツに取り組むことは健康の保持増進だけでなく、ストレス解消や自己免疫力の向上などの効果が得られ、健康二次被害を防ぐことが期待されている。このことがスポーツの果たす役割の重要性のひとつと考えている。

⑩スポーツ推進委員の選任について、「報酬」「本業との兼ね合い」などが障害となると推測するが、工夫や対策をご案内いただきたい。

<スポーツ振興課>

実際に本業を持っている方は多いため、活動等については主に土日や平日の夜間に行っている。また報酬については市が主催した事業に参加した場合に限って、1回7,800円の報酬をお支払いしているが、本業との兼ね合いで受取れないために、辞退されている方もいる。

⑪スポーツ分野での「つながりづくり」「まちづくり」への取組の効果を検証するために、どのような方法が考えられるか。

<スポーツ振興課>

イベント事業等を行った際に地域の方々にアンケートをとって、取組みが「つながりづくり」や「まちづくり」に貢献しているかを確認するなどが考えられるが、客観的なデータとして検証するのは難しい。

### (イ) グループワーク

3つのグループに分かれ、さいたま市の生涯学習として新たに考えられる取組や、現在行われている生涯学習の取組に参考にできることなどについて意見交換を行った。

### (ウ) グループ発表

< Aグループ（発表者：村山委員） >

まず、現在行われている取組の中で良い点として、推進委員によって健康寿命が推進されていることが挙げられた。事業の説明にあった各校のチャレンジスクールやシニア世代の公民館活動に講師を派遣し、スポーツを行うきっかけづくりをしているところが良かった。

続いて、新たに考えられる取組については、一つは行政組織の中でスポーツ推進委員、スポーツ協会、レクリエーション協会などに分かれているところを、相互のネットワークを強めることで、健康寿命の伸長や、市の目指す「日本一スポーツで笑顔あふれるまち」を実現に資するものとする。

もう一点、文化芸術活動に既存のネットワークが使えないだろうか、或いはそれらにもスポーツ推進委員のような委員が作れるのではないかという御意見もあった。

その他、中学校部活動の地域移行に関連して、スポーツ推進委員のような地域の方々の方が部活動の担い手になるのではないかと、例えば個別競技の指導者というよりは、部活動の管理者として安全管理や活動の進捗に貢献できるのではないかと御意見があった。

< Bグループ（発表者：関根委員） >

Bグループは大きく三つのポイントに分けて話をした。まず、見える化が大事だという意見があった。例えばスポーツにおいても、アスリートを目指す方もいれば、健康づくりが目的の方もいる。そのような環境で、市民にどんな選択肢があるのかが分かりにくい部分もある。例えばドイツでは「スポーツフェライン」という形で組織がはっきりしていて、この事例は一つの参考になる。このような形で活動の見える化をしていくのが、生涯教育とスポーツというキーワードでまず一点。

それから二点目で他組織との連携として、新しい取組を活性化するためには、ベンチマークやライバルがあるといい。国内ならば、福岡をベンチマークとしているような交流を図る。それからさいたまはサッカーのまちなので、ドイツのケルンを相手として海外と交流を行うなど世界を視野に入れると、色々なことが深掘りできるかもしれない。

三点目。今までの意見を全部含め、さいたま市でのフェスティバルを実施する。単独のスポーツでは限界があり、なかなか情報公開もできないが、まち全体で展開して、ある時期ある日に開催する、場合によっては文化的要素も引き入れる。ベンチマークとしては、横浜の「スポーツ・レクリエーションフェスティバル」が参考になると思う。

以上、三点を挙げたが、小さな自治体ではこのような取組みは難しい。一方で東京のように大きい都市だとまた別の理由で難しくなってくる。しかし、さいたま市は133万人というある意味丁度よい基盤があることで、独自性を出して色々なことができる。

加えて、さいたま市は浦和市・大宮市・与野市・岩槻市が合併して成り立ってい

るが全体での共同意識が少し薄い面がある。このような展開をすることで、もう一度、住民としての自負心や、最終的にはさいたま市で生きていることへの満足感が得られ、生涯学習にも十分メリットがあると考える。

< Cグループ（発表者：石田委員） >

Cグループではスポーツ推進委員のことがよく分からずに疑問だけが出てきてしまい、まとまった話ができなかった。

話をスポーツに絞らずに、まちづくりと生涯学習につながるための観点として、まちづくりの大学とか、コミュニティ・スクールとか、公民館とか拠点を決めて、今後、地域とつながって、スポーツも、その地域の伝統とかも、あまり分けずにやっっていこうという話をした。

### 【総括】

< 副議長 >

今回はスポーツ推進委員を題材として取り上げたが、それだけに留まらず全体的な提言に向けて、各グループで大変活発に議論していただいたものと思う。

今回はスポーツ推進委員について詳しく説明していただいたので、議論がそれに引きずられてしまった面があったかもしれないが、例えばもう一つ二つ、簡単に事例紹介していただいて比較して考える、もしくは事例紹介はなしで一からワークショップで考えてみましょうという方向もありかと思う。

もっと時間を取れば話が盛り上がり、途中でメンバーチェンジなどをしてみると、他グループの話し合いも分かって、議論にもさらに広がりができるかと思った。

今回ワークショップという機会を持てたことで、議論も深まり、良かったと思う。

< 議長 >

たくさん大事なことが指摘されたと思うが、キーワードを二つに絞ってお話をさせていただきたい。

一つにはネットワークや連携をキーワードとして、「さいたま市生涯学習ビジョン」には個人の成長から輪の成長・まちの成長があり、その中心につながりづくりとあるが、そのつながりとは実は市民同士のつながりづくりだけではないという話があった。スポーツ分野の中でもまだつながりが深めてられてない部分があり、今回はスポーツ分野の話だったが、生涯学習は多様な分野に跨っており、その分野を超えたつながりが薄いということは共通の課題の一つだと思う。これをどう乗り越えていくのか。その仕掛けとして、例えばCグループではコミュニティ・スクールや公民館などの拠点づくりがあり、Bグループからはフェスティバルを企画して、分野を超えた交流が起るような仕掛けをする提案があった。こういった取組をさらに具体化して考えていくことが必要かと思う。

関連してもう一つ、「可視化・見える化」がキーワードとなっていた。Bグルー

プの発表では、地域の中で生涯学習やまちづくりの多分野で活動されている方をどのように可視化していくのかが重要だという話があった。見えるからこそつながることができるし、「可視化・見える化」というのは今後大きなテーマになりうると感じたということで、今回のワークショップの私のまとめとしたい。

最後にワークショップに関わって議長からの提案だが、生涯学習は本当に多様な分野に関わるものなので、色々な活動を聞いた上で議論が必要だと思う。そこで、社会教育委員会議の枠組みとは別に、本日のようなワークショップを行う機会を設けたいが、いかがか。

(各委員承認)

具体的な方法や日程については事務局と相談し、決定した後に連絡させていただく。

### (3) 連絡事項

生涯学習振興課長が出席した「令和4年度指定都市社会教育主管課長会議」の概要について報告した。

また、「令和4年度さいたま市生涯学習ガイドブック」と「さいたま市生涯学習学びのネットワーク」について紹介した。

## 4 閉会

以上



まとめシート（Aグループ）

各スポーツ団体が点で動き、  
同じ目的で動いているのに広  
がりが見えない。ネットワーク  
で動く

場所の提供  
例：自習室 スポーツの練習

スポーツ推進委員のような仕  
組みを  
文化芸術・地域づくり（指導  
員・コーディネーター）でも  
出来ないか

ビジョンの理解ではなく、融  
合（組み込んだ）形で浸透し  
ていけないか

健康寿命の推進に

健康づくりの重要性が長寿社  
会での生きがいに通じるもの  
と思う

区や学校のPTA組織の依頼  
により、スポーツの体験活動  
の支援  
人づくり→つながりづくり  
ストレス解消コミュニケーション

データを明示  
例：予算 学習時間

1. 参考にできること  
申込、登録の簡素化や廃止
2. 理由  
参加をスムーズにする

# 133万人

## まとめシート (Bグループ)

「年代別スポーツ参加イメージの提示」  
①一本 ②年齢に応じて、生涯学習のツールとして

活動  
見える化  
見学しやすい

「独スポーツフェラインのさいたま市内バージョン検討」  
深く街にはいりこむ

活動の見える化

「他組織（地域）との交流」  
特定の都市との提携  
（国内・福岡  
海外・ケルン）

世界大会をまねく

他組織との連携

「さいたま市包括スポーツイベント開催」  
（横浜元気スポーツレクリエーションフェスティバル参照）  
市民一体化と多様性

本日のスポーツ関係では、スポーツの全事業が集う場が必要ではないか。（スポーツの種目別大会はたくさんあると思う）

機会をふやす  
イベント、  
フェスティバル

市民の健康保持のための取り組み

「協会」という普及文化

各支部組織化

「生涯学習フェスティバル」のような全体を束ねる行事の（場の）設定を計画してはどうか。（定期的に行い評価していく）

行政区ごとのまちおこし  
各分野から募集した産業をまとめたイベント

まとめシート（Cグループ）

公民館にまちづくり大学校をおく  
コミュニティ・スクール

まちづくり大学校（地域づくり）の創設  
↑  
市民大学、シニアユニバから  
一歩焦点化

他分野の推進委員の新設（例えば伝統文化とか）

スポーツクラブのインストラクターに推進委員募集をつのる

スポーツ推進において生涯学習の位置づけには誰でも気軽にスポーツを楽しむことが大事。障害を持った方も推進委員として活動できるようにしたい

チャレンジスクールボランティアへの協力  
コミュニティ・スクール

ニュースポーツ以外ZUMBAなどを教える人がいるのか？

スポーツ推進委員を意外と知らない

スポーツ推進委員が地区に何名いるのか？

体育振興会との違い

シティマラソンなどさいたま市主催の様々なスポーツ大会での活動において、推進委員をPRする場があれば

P T A 保護者  
元会長 元中学校長  
民生委員 青少年育成会

地域との連携  
コミュニティ・スクール  
地域の方  
伝統、祭り

## 第 11 期さいたま市社会教育委員 臨時会自主ワークショップ 会議録

○開催日時：令和 4 年 11 月 1 日（火）10 時 00 分～11 時 30 分

○開催場所：第二別館 2 階 教育委員会室

○出席者名：【委員】若原 幸範議長、加藤 美幸副議長、石田 玲子委員、  
井上 久雄委員、小森谷 由紀江委員、関根 公一委員、  
千明 勉委員、溝口 景子委員、亘理 史子委員

【事務局】（生涯学習部）山浦 麻紀  
（生涯学習振興課）辰市 健太朗、馬場 智哉、竹居 秀子、  
石田 悦子、伊藤 智美、清宮 雅貴  
（消防団活躍推進室）蓮見 尚希

### 1 開 会

### 2 挨拶

### 3 議 事

#### (1) 報告事項 前回会議について

令和 4 年度第 1 回会議の概要について会議録に基づき説明した。

#### (2) 協議事項 第 11 期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

##### (ア) 事業説明・事前質問への回答

資料 1 別紙を基にヒアリング対象事業の「消防団の充実強化」について、所管の消防団活躍推進室より概要の説明と、社会教育委員から事前に募った質問事項への回答を行った。

##### 【事前質問回答】

① 消防団員になるためにはどうしたらよいか、募集はどのように行われているのか。

<消防団活躍推進室>

市内在住・在勤・在学の健康な 18 歳以上が入団可能で、入団希望者には消防団活躍推進室や消防署等にお問い合わせいただいている。

入団希望者は居住地の分団長に紹介し、面談の上で入団となる。現在、新規入団者の約半分が在籍団員からの紹介となっている。

募集活動については、イベント等でのリーフレット配布や、各種広報誌への掲載、広報物の配布等を実施している。

② 女性が入団を断られる例があると聞いている。分団の人数（最少・最大）、男性・女性の割合を伺いたい。

<消防団活躍推進室>

10月現在、消防団全体として総数1,229名のうち、93名が女性で、割合的には約7.6%である。

分団の定員や男女比に規定はないが、大規模災害対応のため必要な人数として各分団20人を目安としている。

- ③ 災害へ備え防災行動力を高める取組みは、どの程度行われているのか。（求めに応じて行われているのか。PRの方法は？）
- ④ 「教育訓練」とはどのようなものか。（それぞれ仕事を持っているので、参加は難しいのではないか。）

<消防団活躍推進室>

③、④は関連性があるため、併せて回答したい。

PRについては、実災害はもとより、市や地域の防災訓練への参加や応急手当の指導、講習等を通じてアピールできているものと考えている。

毎年度、教育訓練の指針を定めており、それを踏まえて各区の消防署と消防団が年間4回程度、地域の実情に応じた訓練を実施している。また、分団単位で毎月放水等の訓練や資機材点検を行うことで、発災時に即応できるよう取り組んでいる。

市や区単位の訓練は土日に実施し、分団単位の訓練は、多くの分団が土日の午前中、または平日夜間に実施している。

- ⑤ 消防団組織は、防火及び広報啓発活動が主体との認識だが、高齢者対策も新たな役割と聞く。具体的活動状況があれば伺いたい。また、消防団組織の役割拡大の具体的なテーマと推進のポイントを伺いたい。

<消防団活躍推進室>

高齢者対策については高齢者防火訪問という事業で、消防団ではなく消防署に配属されている再任用職員が主に対応している。

- ⑥ さいたま市は「暮らしと働く場所」が違う方が多く、消防団に所属している方がその地域に日中不在のことも多い。そのため在勤で日中いる方々で消防団に変わる活動ができる「訓練やつながり」が必要かと思うが、そのための取組みや施策などあれば伺いたい。

<消防団活躍推進室>

さいたま市消防団の昼間の消防団消防力については、令和3年度の調査で活動が見込めると回答した団員が約3割に留まっている。そのため、昼間の消防団消防力の低下への対応として、市内在勤者を対象として、入団を推進する必要がある、さいたま市の消防団充実強化計画にも記載している。

- ⑦ 消防団員の確保のために、どのような取組みを行っているか。

<消防団活躍推進室>

出勤報酬増額等の処遇改善や、消防団活動による負担を軽減するため研修の

効率化、一時的に活動ができなくなる団員のため、消防団員の身分を保持したまま活動を休止できる休団制度を導入するなど、活動しやすい環境を整備している。

- ⑧ 消防団の認知度を高めるために、取り組んでいることはあるか。

<消防団活躍推進室>

ポスター掲示、自治会回覧版による広報、企業・団体への直接訪問、自主防災組織・理事会への参加、市報掲載。市職員向けの電子掲示板への掲載、ツイッター・フェイスブックなどSNSを用いた広報、Jリーグホームゲームのオーロラビジョンを用いた広報、のぼり旗の設置や、さいたま市広報番組への出演、またラジオでの呼びかけ等、多角的に実施している。

- ⑨ 消防団活動には、団員の家族や職場の（特にトップや上司など）理解が必要になる。その為の啓蒙活動などはどのようなことを取り組まれているのか伺いたい。

<消防団活躍推進室>

消防団員を雇用している事業所には、基準を満たせば、消防団協力事業所として認定し、表示書を交付している。表示書が交付されると、事業所に掲出できるほか、市や自社のホームページにもそのことを掲載することができ、社会貢献の証としてアピールすることができる。

また、団員の家族については、一定期間在団した団員を支えたことに感謝の意を表し、表彰する制度があり、感謝状を贈っている。

- ⑩ 消防団員の方で防災アドバイザーに登録し、平時から地域の防災力向上にご尽力頂いている方を知っている。平時から消防団と防災アドバイザーと連携は検討されているか。

<消防団活躍推進室>

防災アドバイザーと消防団員の双方に参加されている方の情報については消防団活躍推進室では把握していないが、平成31年度より防災課と連携し、消防団の中で分団長以上の階級の者であれば、防災士取得の際に免除項目を設けている。

#### 【その他事項】

<消防団活躍推進室>

広報活動について、一点ご紹介したい事例がある。

昨年度作成したリーフレットについて、新しい試みとしてSNSなどで情報発信力の非常に高いラジオパーソナリティにご登場いただいた。投稿1件に対して、半日程度で1,000人以上から反応があるような方で、1,000人の方に半日でリーフレットを配るのはなかなか難しいが、SNS等に投稿していただくことで大きな宣伝効果があるということで依頼したものである。

個人的にその方のラジオを聞いていたところ、一日警察署長のようなイベントをやってみたいという話や、制服を着てみたいという話をしていたため、SNSのダイレクトメッセージで事業概要を説明してご依頼したところ、快く受け取ってくれた。多角的な広報の例として紹介させていただいた。

### (イ) グループワーク

3つのグループに分かれ、さいたま市の生涯学習として新たに考えられる取り組みや、現在行われている生涯学習の取り組みに参考にできることなどについて意見交換を行った。

### (ウ) グループ発表

< Aグループ（発表者：溝口委員） >

Aグループでは四つの分野に分けて話をした。

一つ目は発信・PRについてである。消防団新規加入者の50%が既団員からの紹介で入団されているというお話があったが、残り50%は全く他所から入ってきていることになる。様々な方法で発信をされていることは本当に素晴らしく、他所から入ってくる人の率が増えるきっかけとなっている。また、新しいところだと動画配信サイトなどで、消防団の人が踊ったりする動画を上げるのも楽しいのではないかという意見もあった。

二つ目は多様性について。例えば、どうしても災害時には情報から取り残されてしまう可能性が高くなる外国籍の方が、気軽に参加できる環境があると良いと思う。また、女性が多く入団するため、例えば更衣室の用意など環境づくりを充実すると参加しやすいという意見があった。

そして、三つ目が地域について。「活動の見える化」をして、気軽に団に参加できるような空気になると良い。また、消防団単独ではなくて地域の団体や、NPOなどとも連携し、例えば地域の公民館等で行っている生涯学習講座などで、消防団の方にお話を聞ける学習会を開けば、入団のきっかけとなるのではないかという意見があった。

最後に学校関連について。子ども達が消防に関する防災教育などをしっかり受けて、小さいうちから消防防災への意識を高めることが大切である。また、コミュニティスクールのメンバーとして消防団員が加わっていただくと、地域での防災の意識が強まるのではないか。後は保育園等でチラシを配布すると、若いお父さんお母さんにも広まるのではないかという意見もあった。

< Bグループ（発表者：千明委員） >

Bグループでも四つの分野に分けて話をした。

一つ目は仕事内容、講座の中身について。それから二つ目が待遇。取り組む人たちのモチベーションの喚起・維持・向上について。三つ目は広報について。四つ目が安心・安全についてである。

一つ目の仕事内容について。学校との連携や、防災という中身は生涯学習のテー

マとして非常に参考になる。

二つ目の待遇については、生涯学習活動の参加者のモチベーション維持のため資格の付与や表彰を行う。消防団員の方については非常勤特別職としての待遇が与えられているが、例えばマイナポイントを活用してポイント制とするのはどうか、というような話が出た

つづいては広報について。消防団はあらゆるメディアを使い、本当に上手に広報していらっしゃる。リーフレットの件も話題になったが、その方にお話し、どのような層にアプローチしたいのかという熱意が現れていると思う。

ユーチューバーの方やアナウンサーの方など発信力のある方を活用しながら、積極的に広報していくことが重要だと感じた。

最後は安心・安全について。消防団活動において安心・安全が大きなテーマになるが、やはりわかりやすいテーマを掲げる事は重要だと感じる。そしてその目標に向かって複数の機関が結び合って、ウィンウィンの関係を都度つくりながら進んでいくことが大事だと思った。

例えば私が先日岩槻区の公民館まつりに参加した際、地域の方々が成果の発表をしているのを拝見した。そういう発表の場があり、またそれを目標として普段の活動を行うサイクルを作り出していくことが、学びや人づくりをしていく上でとても大事だという意見もあった。

## 【総括】

### <副議長>

今回は私もグループの一員としてワークショップに参加し、大変勉強になった。また、議長の声掛けで今回自主的に集まりいただいたという事実が素晴らしいと思う。

私の参加したグループは様々な立場の方がいらしたので、それぞれの立場からの意見が出てことがよかった。この様々な意見を四つのカテゴリーに分類し、まちづくりにつなげていくためには安全安心が大事だという話や、最後に学びと活動の循環が大事だという形でまとめられたことが本当に素晴らしいと思った。このように意見を分類し、方向性を定めながらやっていくのは良いと思う。

また、話し合いの中で、一人ひとりが、思い切った行動をすることが大事であり、消防団活躍推進室の方の行動力はその模範となるという意見があった。

### <議長>

まず、本日は私の提案で皆様にお集まりいただき、とても充実した議論ができたことを感謝したい。

前回ワークショップの際に、二つのキーワードを出させていただいた。

一つは活動の可視化という点である。これは今回のワークショップでも共通した論点として、特に広報や情報発信という面で活発に意見が出されていた。

特に消防団活躍推進室の方のご説明を伺って、非常に情報発信に対するアンテナが高く、チャンスを掴んで広報活動に繋げていらっしゃることは、様々な分野にお



いても参考になるものと思う。

それから前回キーワードとしてもう一つ、ネットワークや連携ということ挙げた。特に今回は防災をキーワードとして、消防団、町内会自治会や、様々な市民団体等、そして特に重要なのが学校だが、地域の連携について意見が出された。

Aグループの議論で、今コミュニティスクール推進する中で、学校に地域をつなげていく、或いは地域が学校を応援していくという双方向の関係で作っている。そこに例えば防災をキーワードとして消防団などが関係の中に入ってくる。学校を拠点にした地域のネットワークも、生涯学習の面でも重要な観点だと思う。

もう一つ、前回まとめた二つのキーワードに加え、今回は多様性というテーマについて議論があった。ジェンダーや、他国籍の方への配慮という観点だけではなく、実際に参加してもらうことで見えてくる視点や、活動の広がりもあるかと思う。多様性について生涯学習の立場からアプローチすることも、ビジョンの重要な理念の一つであり、今回の提言として具体化していけると良いと思った。

### (3) 連絡事項

「KIDS 郷育 MOVIE プロジェクト」と「さいたま市生涯学習フェスティバル」について紹介した。

## 4 閉会

以上

## まとめシート (Aグループ)

### 発信

情報発信への  
アンテナを高く

Tik Tok  
生活に使えるネタ  
+  
ダンス

新参者への  
ハードル下げる  
50%の  
ツテじゃない人いる!!

様々なPR活動を  
されていること  
(発信)

### 多様性

外国籍住民の参加

男女差 やれることを示す  
But  
住民は男女半々

女性の参加

女性が入団したい  
環境整備  
(更衣室や  
ホースのまきとり作業)

### 学校

学校の教育現場に  
地元消防団を参加させ  
防火意識向上を  
図る

学校での防災教育への  
啓発参加

中学校の総合授業での  
フィールドワークの際に  
消防団の活動を  
みせてほしい

コミュニティ  
スクール

保育園で啓発時、  
パパママ向けにも  
チラシを配布  
→対象者+家族へPR

防災教育を  
キーワードに  
ネットワーク化

### 地域

日常の消防団の  
活動を広く住民に  
周知させるには  
地域活動への  
積極的な参加

常設消防はレスキューとか  
花になる部分があるが、  
消防団は山狩りなど  
刺子の半纏の  
イメージがある  
イメージUPを

地域の分団にこだわらず  
区単位で本人の意向に  
沿っての入団

宣伝をする際  
身近な方の活躍が  
わかるとよい

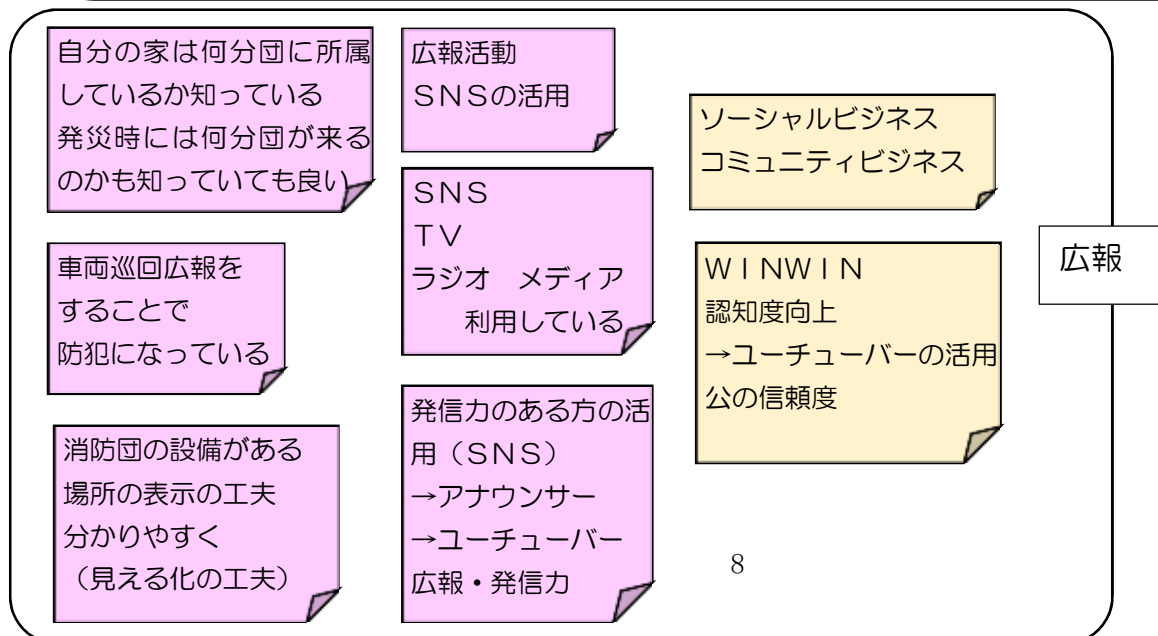
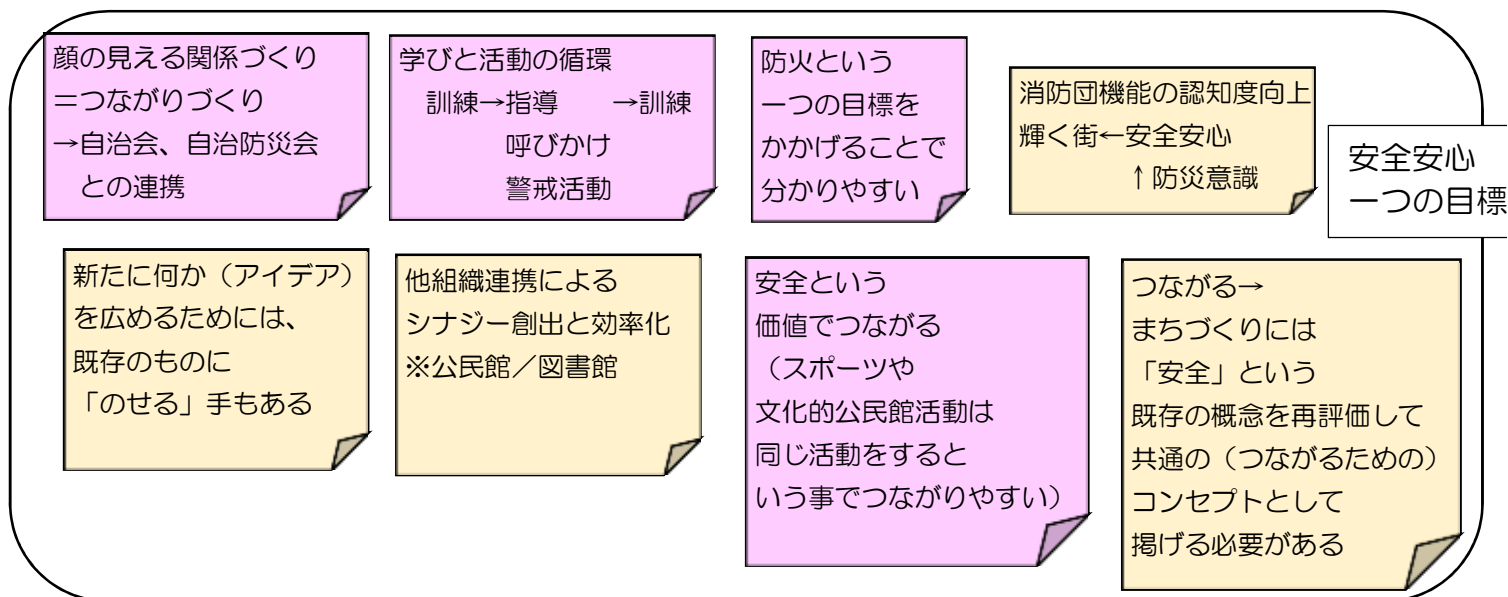
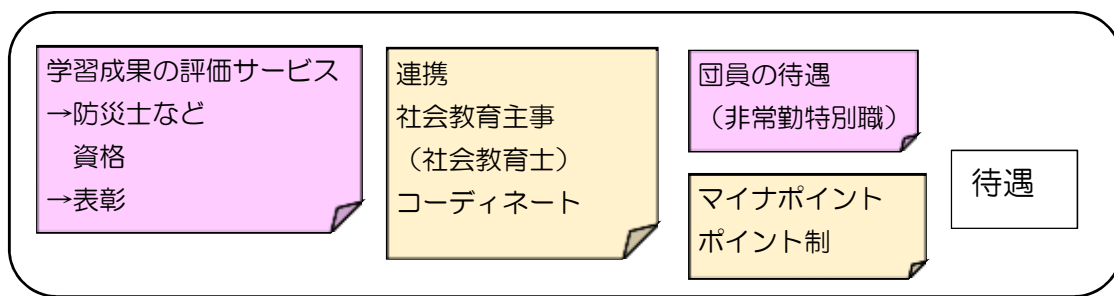
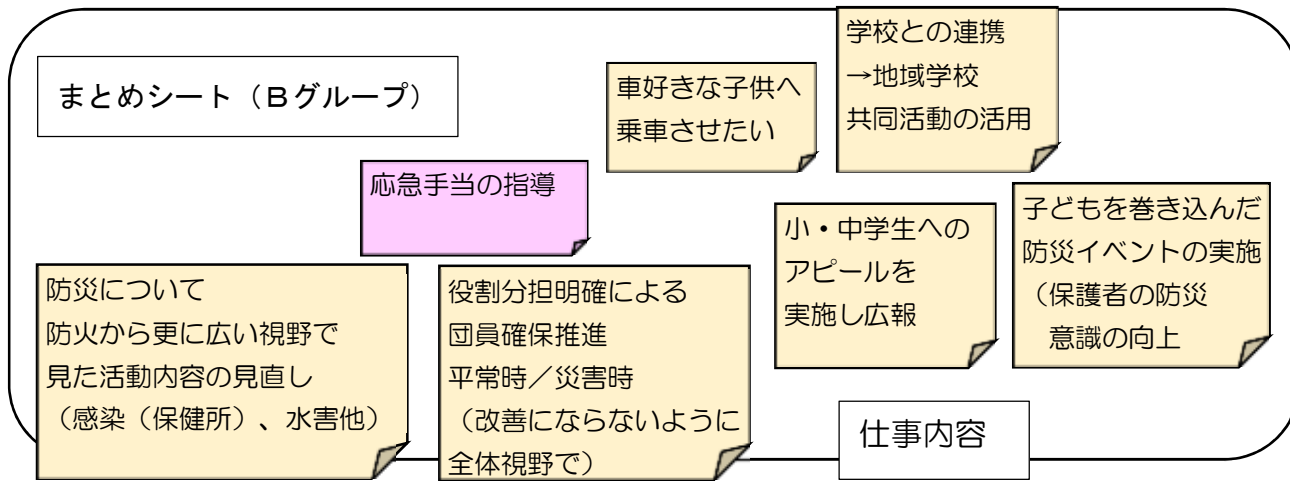
地域の自主防災会、  
自治会が購入する  
防災備品等のアドバイス

活動の見える化をして、  
気軽に参加できる  
気になれるとよい

消防団員さんへの  
講師登録推進

実際の活躍事例を  
広く発信

地縁団体と  
NPO・市民団体の  
連携



## 第 11 期さいたま市社会教育委員会議ワークショップについて

## 1. ワークショップとは

いろいろな考えの人が集まり、ともに作業することで、お互いの意見を理解し合い、協力して新しい発見、共通の方向性を見出す手法です。

意見を戦わせる議論や、疑問点・不明点を明らかにする質疑応答を目的とする場ではありません。

## 2. 検討テーマ

- (1) 個人の学習成果「人づくり（個人の成長）」が、「つながりづくり（輪の成長）」「まちづくり（まちの成長）」につながり、地域社会の発展に生かされるための方策
- (2) 市民と生涯学習提供者双方に生涯学習ビジョンを理解してもらうための方策

## 3. ヒアリング対象事業

- 高齢者大学事業（シニアユニバーシティ）【高齢福祉課】

## 4. グループ分け（出欠次第で入れ替え）

グループ	構成
グループ A	若原議長、石田委員、桑原委員、塚元委員、溝口委員、吉川委員、事務局、事務局
グループ B	加藤副議長、井上委員、小森谷委員、関根委員、林委員、事務局、事務局

## 5. 本日の流れ（約 80 分）

- (1) 事業説明・事前質問への回答（約 15 分）
- (2) グループワーク（約 40 分）
- (3) グループ発表（約 10 分）
- (4) 総括（約 10 分）

## 6. 実施内容

- (1) 事業説明・事前質問への回答（約 15 分）

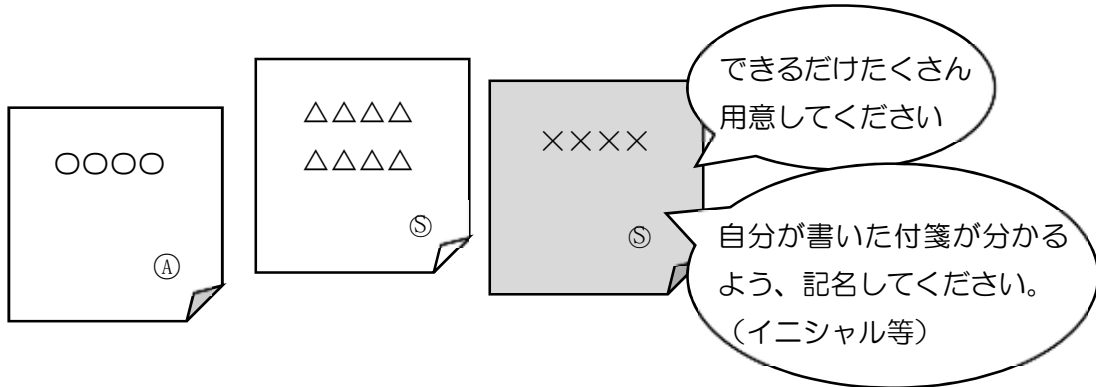
今回のヒアリング対象である「高齢者大学事業（シニアユニバーシティ）」について、所管課より概要の説明と、委員から事前に募った質問事項への回答を行います。

- (2) グループワーク（約 40 分）

- ① 意見交換のための準備（約 10 分）

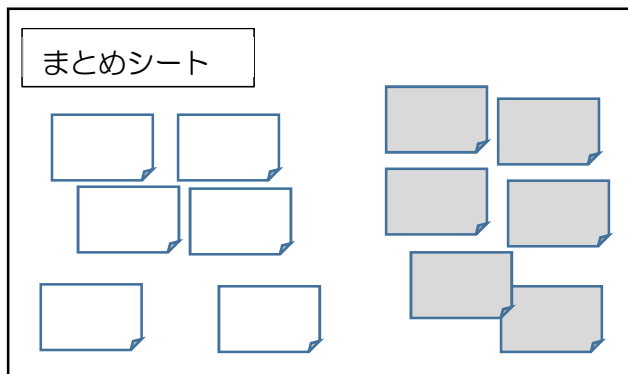
- まずは各自で、ヒアリング対象事業の説明や皆様の日頃の活動をとおして、さいたま市の生涯学習として新たに考えられる取り組みや、現在行われている生涯学習の取組に参考にできることなどを一言ずつ付箋に書いていきます。

- 意見は1枚の付箋に1つずつ、なるべく簡潔に書き出してください。
- 新たに考えられる取り組みについては黄色のフセン、現在行われている取組に参考にできることについてはピンクのフセンに記入してください。
- 今回のヒアリング対象事業自体の改善案等をお書きいただくものではありません。



② 意見交換 (約20分)

- 各グループに分かれ、一人ずつ付箋に書いた意見をまとめシートに貼り付け、グループ内で発表してください。(一人あたり2分程度)
- 近いイメージの付箋は近い位置に貼り付けるようにしてください。
- 発表が一巡したら、グループ内で意見交換を行ってください。



③ グループ内まとめ (約10分)

- 各グループで発表担当を決め、グループ発表の内容をまとめてください。
- 発表担当は議長、副議長以外の社会教育委員からお選びください。

(3) グループ発表 (各5分程度/計10分)

まとめシートの内容を基に、グループごとに発表担当から発表していただきます。

(4) 総括 (約10分)

各グループの発表について、議長と副議長が総括を行います。

# 高齢者大学事業（シニアユニバーシティ）

## (1) 事業概要

シニアユニバーシティは、60歳以上の方を対象に1年間の講義を通じて、心身の健康増進、地域での仲間づくり、生きがいを目指し、また、地域社会でご活躍いただける人材の育成に取り組んでいます。

### 〔現状（令和4年度4月）〕

入学者数	(人)	
	大学	大学院
岩槻校	53	17
北浦和校	80	51
大宮校	80	58
中央校	55	16
東浦和校	51	19
北大宮校	48	12
福祉専修科	—	27
音楽専修科	—	30
ICT専修科	—	15
合計	367	245

シニアユニバーシティ校友会連合会 会員数 (人)	
岩槻校協議会（休会中）	261
北浦和校協議会	367
大宮校協議会	568
東浦和校協議会	785
北大宮校協議会	174
合計	1,894

## (2) 活動内容

### 〔シニアユニバーシティの活動内容〕

- 1年目に大学、2年目に大学院を開設しています。セカンドライフをいきいきと過ごすために必要な教養を学んでいきます。
- 授業外で自主的にクラブやボランティア活動に取り組みます。
- 希望者は、卒業生で結成された自主運営団体（シニアユニバーシティ校友会連合会）へ加入することで、地域での活動を継続して行うことが可能です。

## (3) 事業に関連する市の施策

- 在学生及び卒業生が、学んだ内容を地域で発揮することができるよう、ボランティア活動先等の情報提供を行っています。
- シニアユニバーシティ校友会連合会に補助金を交付し、卒業生の活動を支援しています。

## 事前調査票

事業名 シニアユニバーシティ事業

【ご回答者】

所 属: 高齢福祉課

担当者名: 渡邊・来栖

連絡先(内線): 881-8627

### 1 「つながりづくり」について

当該事業において、人と人とのつながりづくり、団体内でのネットワークづくりなど「つながりづくり」に役立っている活動があれば、お答えください。

[内 容]

- ・授業内で行う班単位でのグループ学習
- ・授業外で自主的に行うクラブ活動
- ・校友会（クラス会）が運営するイベント

### 2 「まちづくり」について

当該事業において、地域への貢献や団体の活躍のフィールドを広げることなど「まちづくり」に役立っている活動があれば、お答えください。

[内 容]

- ・講座→高齢者施設等でのボランティア活動や、地域のパソコン講師としての活動を目指すことができる授業を行っている。
- ・校友会（クラス会）→卒業期単位及び同期の仲間でのボランティア活動（福祉施設での発表・補助等）や、身近にいる仲間から刺激を受けて市が行っている他事業（部活動サポーター・チャレンジスクール等）への登録、活動を行っている。
- ・校友会連合会→独自のイベントを企画・開催することにより、高齢者の生きがいづくりに貢献している。

### 3 課題点について

当該事業において「つながりづくり」及び「まちづくり」への課題点等があれば、お答えください。

[内 容]

- ・コロナ禍において、継続して活動をしたいと考えても場がないため意欲が続かない。活動場所の情報提供等が重要となっている。
- ・新しいつながりづくり及び活躍のフィールドを広げるため、多世代交流等により、高齢者の意識を同世代のコミュニティ外へ向ける機会を創出することが重要になっていく。
- ・校友会（クラス会）をまとめる存在が不足しているため、リーダーとなる人材の育成又は確保に努める必要がある。
- ・シニアユニバーシティの存在をより多くの市民に知ってもらう必要がある。

## 委員事前質問票

事業名 高齢者大学事業（シニアユニバーシティ）

### 1 事業概要シートについて

[内 容]

#### (1) 事業概要

- ① 事業の目的から入学者数の増加が求められると思うが、大学・大学院共にコロナ前後の推移や入学金の有無・金額について教えてください。
- ② 校友会はつながりづくりにはよい仕組みであると思うが、岩槻校は休会中とあります。活動内容などの現状を教えてください。
- ③ 大学は大宮、北浦和は定員を超える申し込みがあるが、大学院はどこ地域も定員割れになっています。この原因は何でしょうか。また、定員を超える申し込みがあった場合、抽選とありますが会場の変更等で入学は可能でしょうか。
- ④ 大学院の人数が少ないが、大学から大学院に進むにあたり人数が減る要因はどのようなものがあるのでしょうか。

#### (2) 活動内容

- ⑤ 目的の「地域社会での活躍」に関わって、授業外のボランティア活動や校友会における地域での活動が重要かと考えるが、実際にどのようなことが行われているのかを教えてください。

#### (3) 市の施策

- ⑥ 情報提供について、具体的な内容と提供方法を教えてください。また、情報はどの程度活用され、活動に生かされているのでしょうか。
- ⑦ 補助金の金額の基準を教えてください。また校友会による補助金の活用内容と、そのほかの支援策についても伺います。
- ⑧ 100年寿命が話題となる中、健康や経済とともに、生き甲斐は極めて重要と考える。政府や県及び市との役割はどのように分担されているのでしょうか。また、さいたま市としての特長や、他市との比較が知りたい。例えば、さいたま市の図書館や公民館は全国有数の数を誇り、同組織を活用し活動展開を図ろうとしているが、高齢者大学事業では、対象大学や講座の数が、多くかつ多様であるなど。



## 2 事前調査票について

### [内 容]

#### 1 「つながりづくり」について

- ⑨大学で学んだ経験や知識を社会で生かしていけるよう校友会があり、校友会を通して様々なイベントや発表会に参加できるのは社会とつながり、高齢者の方々の生きがいにもつながる取組み。ユニバーシティをもっと広く知っていただくよう今後どのような広報を検討されているのでしょうか。

#### 2 「まちづくり」について

- ⑩ 「独自のイベント」について、どのようなものがあるか教えてください。

#### 3 課題

- ⑪ 「場がない」という方に対しての「場づくり」で、情報提供以外に、市として行っていることはあるのか、教えてください。
- ⑫ 「人材育成」や「周知」は重要かと思うが、市として現在行っていることはあるのか、教えてください。
- ⑬ 本事業は、生涯教育の中核であり、高齢化社会対策の中心と考えるが、課題点解決の為の障害は何でしょうか。「あくまで高齢者個人の意欲が優先すること」「予算設定など費用制限」「高齢化に伴う社会変化に施策が順応できていない」などが考えられますが、実態をお伺いします。
- ⑭ 多世代交流について、保育園や小学校での事例があれば教えてください。